

令和7年度 学校評価報告書

報告内容

- 1 今年度実施した自己評価
 - ・ アンケート（生徒・保護者・教師）の分析と考察
 - ※ 今後の対応を含む。
- 2 学校関係者評価
 - ・ 学校運営協議会における意見を参考

都城市立庄内中学校

令和7年度 学校評価アンケート 11月実施

1：そう思う 2：少しはそう思う 3：あまりそう思わない 4：そう思わない

1 研鑽「確かな学力の育成」

1 各教科の学習方法（家庭で学習する際の勉強方法や学習時間の作り方等）を理解できている。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)															
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4									
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7								
29	23	45	56	6	17	20	4	16	17	47	44	30	32	7	7	21	31	42	25	37	44	0	0								
分析								昨年度と比較すると生徒の自己評価が5ポイント向上した一方で、保護者は2ポイント減、教師の評価は7ポイントと大きく低下し、三者三様の傾向を示している。特に、指導する側の教師の評価が顕著に低下した点は重要なサインである。								対応								生徒は学習方法の理解に手応えを感じ始めているものの、教師側はその指導の浸透度に新たな課題を感じている可能性がある。また、保護者の評価が伸び悩んでいることから、家庭学習の具体的な方法や学習計画の立て方について、保護者向けの情報をさらに強化する。							

2 各教科の授業は分かりやすく、生徒の主体的な活動が見られる。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)							
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4	
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
43	40	48	53	3	6	6	1	23	21	55	51	21	25	1	3	32	31	63	69	5	0	0	0
分析 今年度における教師の肯定的評価は100%に達し、生徒も90%を越えており、高い水準を維持している。しかし、保護者の評価は6ポイントと顕著に低下しており、教師の認識との間には28ポイントという極めて大きな乖離が生じている。								対応 授業改善に対する教師の努力と自信がうかがえる一方で、その成果や授業の価値が保護者に十分に伝わっていない状況が推察される。授業参観や学級通信などを通じて、授業内容や生徒の主体的な活動の様子をより具体的に可視化し、伝える努力が急務である。															

3 定期的に本や電子書籍等に触れ、活字を読んでいる。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)															
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4									
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7								
20	21	22	25	31	39	27	15	7	13	17	22	43	38	33	27	32	13	42	50	21	24	5	13								
分析								昨年度と比較すると、生徒の肯定的評価は4ポイント、保護者は11ポイント向上している。一方で、教師の評価は11ポイントと大幅に低下している。また、生徒も保護者も肯定的評価が50%を下回るため、生徒の読書習慣が定着していないという懸念が強まっている。								対応								読書活動推進の取り組みも一定の成果は上げていると考えられる。特に保護者の認識が大きく改善したことは、質問の内容を見直したことが功を奏した可能性がある。今後も引き続き、生徒の読書習慣そのものの定着に向けた継続的な取り組みが求められます。							

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)																	
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4											
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7										
	26		45		23		6		23		39		30		6		50		44		6		0										
分析	この項目は今年度新設したため、昨年度との比較はできないが、全対象者で肯定的評価が高い。教師の評価が90%を越えるのに対し、実際にQubena（キュビナ）を使用する生徒の評価は71%、保護者は62%と最も低い。																対応	教師の間でQubena（キュビナ）導入への期待や評価が高まる一方で、生徒の活用意欲が伴っていない「ねじれ」が生じている。今後は、教員主導の導入から、生徒が自らの学習目標達成のために活用する「生徒所有」のツールへと意識を転換させることが必要である。															

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)																	
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4											
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7										
	44		46		10		0		24		42		32		2		31		56		13		0										
分析	この項目は今年度新設したため、昨年度との比較はできないが、全対象者が肯定的評価が高い。特に生徒からの評価は90%と極めて高い水準に達していることは、本校の大きな強みである。																対応	個別最適化された学習支援の取り組みが高く評価されており、生徒一人一人が大切にされているという実感につながっているものと考えられる。今後も、この強固な信頼関係を基盤として、他の教育活動を展開していく。															

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)							
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4	
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
71	82	22	16	1	1	6	1	27	61	63	37	8	2	2	0	32	19	53	69	16	12	0	0
分析 生徒、保護者の肯定的評価は高い水準で推移し、「そう思う」の割合が大きく向上した。教師も高い評価ではあるが、「そう思う」の割合が一ポイントと評価が顕著に低下しており、安全な生活への意識や指導の徹底に懸念がある。								対応 生徒の自己認識と、日常的に生徒を見守る教師の客観的評価との間にギャップが生じている。教師の視点から見て、生徒の安全意識に具体的な懸念が生じている可能性が示唆されるため、ヒヤリハット事例などを基にした安全指導の再徹底が求められる。															

7 学校や家庭等において意欲的に運動に取り組んでいる。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)															
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4									
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7								
63	58	20	26	6	12	10	4	49	51	32	26	15	17	4	6	47	31	47	56	5	13	0	0								
分析								昨年度と比較すると生徒の肯定的評価は横ばいで、保護者と教師の評価はそれぞれ4ポイント、6ポイントと低下している。保護者の評価が低下していることから、家庭における運動習慣の定着に課題があると考えられる。								対応								学校での体育活動は充実していると教師が認識している一方で、家庭での運動習慣を含めた生徒の活動量に対して、生徒自身や保護者が課題を感じ始めている可能性がある。学校体育の充実を図るとともに、家庭に対して運動の重要性や具体的な取り組み方を発信する。運動習慣定着への支援を強化する。							

8 普段から健康管理や食事に気をつけている。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)																	
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4											
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7										
71	41	22	48	1	8	6	3	27	34	63	49	8	14	2	3	32	19	53	69	16	12	0	0										
分析	教師の肯定的評価は高い水準で微増したが、保護者は6ポイント、生徒は4ポイント低下した。全対象者とも非常に高い評価を得ており、現状の健康管理・食育指導は有効に機能している。																対応	健康や食事に関する指導は学校で徹底されているものの、その実践が家庭レベルでは十分ではないと保護者が感じている可能性がある。食育だより等を通じて、家庭で実践可能な具体的な情報共有を強化し、この水準を維持する取り組みを継続していく。															

9 毎朝、朝食を摂って登校している。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)											
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4					
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7				
79	84	10	10	8	4	4	2	85	85	9	9	4	3	2	3	16	25	74	75	11	0	0	0				
分析		全対象者で90%を越える極めて高い評価を維持しており、特に生徒と教師の肯定的評価はさらに向上している。このことは、昨年度に取り組んだ学校保健大会と庄内地区PTA研究大会講演会での食育講演が保護者に与えた影響もあるのではないだろうか。												対応		朝食摂取の習慣は非常によく定着しており、学校と家庭の連携が機能している好事例と言える。これは生活リズムの安定と学力、体力の基盤となる重要な成果である。引き続き朝食摂取の重要性を周知徹底し、全生徒の確実な朝食摂取に向けて、生活指導を強化する。											

3 敬愛「心の教育の充実」

10 地域の行事やボランティア活動等に積極的に参加している。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)							
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4	
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
35	30	31	38	10	25	24	7	24	21	46	43	24	31	6	5	47	56	47	38	5	6	0	0
分析								対応								対応							
昨年度と比較すると、生徒、教師は肯定的評価がさらに向上している。一方で、保護者の評価は6ポイント低下した。生徒の肯定的評価の割合を学年別にみると、1、2年生が65%、3年生は80%であり、3年生は優先的に外部ボランティアに派遣するためだと思われる。								生徒の地域活動への参加は、生徒自身及び教師から高く評価されている。今後も地域活動への参加促進を継続するとともに保護者の認識低下の要因を特定し、生徒の主体的な活動のさらなる向上を目指す。															

11 社会のルールや学校のきまりを守り、規則正しい生活を送っている。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)							
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4	
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
51	57	41	38	1	4	7	1	52	57	43	40	3	2	1	1	26	31	74	63	0	0	0	6
分析								対応								対応							
全対象者の肯定的評価が90%後半という高いレベルである。生徒、保護者の評価は向上しているが、教師は6ポイント低下している。教師の視点からは、表面的なルール遵守だけでなく、その背景にある意味の理解や自律的な行動という点で、改善の余地が見えているものと思われる。								生徒の規範意識は、教師だけでなく保護者及び生徒によって高く評価されている。今後とも生徒指導を徹底し、社会のルールや学校のきまりを守る意識を再認識させるとともに家庭との連携を強化し、規則正しい生活習慣の確立を促す。また、生徒による校則検討も進め、高評価を維持する。															

12 学校の友達や家族、地域の人に対して思いやりのある言動をとっている。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)							
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4	
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
57	58	37	37	1	4	5	1	49	52	45	42	6	6	1	0	32	31	68	63	0	6	0	0
分析								対応								対応							
全対象者の肯定的評価が94%を超える高い水準である。しかし、昨年度と比較すると教師の評価は6ポイント低下している。生徒は十分に思いやりのある態度で生活できていると考えて良いが、不適切な言葉で心を痛める事例や配慮のない言動もゼロではないためと思われる。								生徒の主観と客観的な行動との間に生じうるギャップについて、道徳の授業などで考える機会を設けていく。道徳や特別活動を通じ、「思いやり」の具体的な実践についての指導を強化するとともに心の教育を充実させ、規範意識と共感力を育む。															

13 いつでも、どこでも、誰に対しても、進んであいさつをしている。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)							
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4	
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
55	62	36	33	1	4	9	1	39	43	51	43	10	12	0	2	26	31	74	63	0	6	0	0
分析								対応								地域から寄せられるご意見では、高校生になっても良くあいさつをしてくれると賞賛の声を聞く。生徒の肯定的評価は3ポイント向上したのに対し、保護者は4ポイント、教師は6ポイント低下している。保護者、教師は、単なる行動の遵守から、「進んで」行うという主体性の部分が表れたものと思われる。 積極的な挨拶を奨励し、生徒が自信を持って挨拶できるための取組として生徒会を中心に「GET-J」～元気よく・立ち止まって・自分から」の取組を続けている。挨拶を単なる行動目標ではなく、社会資本やコミュニティを築くための本質的価値として捉え直す対話を求めている。							

4 地域連携「地域人材の活用と情報発信」

14 地域人材の活用を通して庄内の歴史や産業に触れ、庄内地区に貢献したいと考えている。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)							
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4	
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
41	23	38	50	3	22	18	5	10	21	49	47	33	26	8	6	26	38	63	50	11	6	0	6
分析								対応								生徒、教師の肯定的評価は昨年度と比較してわずかに低下したが、保護者は大きく向上した。昨年度よりも各学年で地域人材を活用する場面が増え、その取組が保護者に多く伝わったことが向上につながったものと思われる。 地域と連携した教育活動が、極めて高く評価されており、生徒の郷土愛や貢献意欲の育成に大きな成果を上げていることが明確に現れた。これは本校教育の最大の強みの一つと言える。今後も地域人材の活用をさらに深化させ、生徒が主体的に地域に貢献できる具体的な活動機会を創出していく。							

15 学校ホームページやSigfy、通信等で学校や生徒の様子について積極的に情報を発信している。

生徒 (%)								保護者 (%)								教師 (%)							
1		2		3		4		1		2		3		4		1		2		3		4	
R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
41	46	35	34	9	10	15	10	40	51	43	43	15	5	2	1	84	94	16	6	0	0	0	0
分析								対応								全対象者の肯定的評価が80%を上回った。特に、保護者からの情報発信への満足度が非常に高い水準で維持・向上している。教師の評価も100%を維持している。 現在の情報発信体制を継続・充実させ、保護者や地域住民のニーズに応じたタイムリーな情報提供に努める。							

【回答数】 生徒…177名 保護者…138名 教師…16名

令和7年度 都城市立庄内中学校 学校評価
「学校関係者評価の結果」

庄内中学校が実施した「令和7年度自己評価」の結果をもとに、本校学校運営協議会では、以下のとおり学校関係者評価を行った。

自己評価の実施状況	○ 今年度の学校経営ビジョン達成に向けての重点目標に沿って評価項目を設定し、教師や生徒、保護者に周知した上で、11月にアンケート調査を行い、自校の取組を分析し、考察を行った。さらに内部評価として各学年での評価、校務分掌部における評価等も定期的に行いながら、現状把握及び課題確認と解決へ向けての手立てを協議した。
自己評価結果の分析及び今後の対応として、学校に期待すること	1 研鑽…「確かな学力の育成」 ○ 今年度は評価について年度当初検討がなされ、学校教育目標の達成に向けて具体的に取り組んで頂きました。その成果が参観授業で拝見できました。生徒の生き生きした活動を見ることができました。個に応じた指導、キュビナの活用、読書についても積極的に取り組んで頂きました。これからもよろしくお願いします。 ○ 読書について昨年より少しは上がっているものの全体的には評価が低いようです。電子書籍を家でも読めるということをアピールしてほしい。 ○ キュビナ活用については学力向上につながることを生徒と保護者に理解してもらいたい。 ○ 学力については、一生懸命に取り組んだ結果なのであれば認めてあげてほしい。 ○ 参観に行くと授業を見ていると、生徒が和気あいあい勉強している姿が楽しそうである。 ○ キュビナがどのような教材なのか分からないが、今後の学習成果に期待します。 ○ 毎年、同じような結果が出ていますが、少しずつ良い結果になりつつあります。気になるのはキュビナの利用で生徒全員がマスターできているのかです。分からないものをそのままにせず「わかりません」と声を上げられる環境作りが大切ですね。 ○ 学力に関しては生徒、保護者、教師との格差が少しある様に感じる。生徒は学習に対してある程度満足している様だが、結果が伴っていないのかもしれない。あと本や電子書籍等、活字に触れる割合が伸びたら良いと思う。 ○ 分かりやすい授業や個別指導、生徒の主体的な活動の評価が高いところが良かったです。 2 剛健…「体力の向上と健康、食育・安全教育の推進」 ○ 健康、安全についての学習は、自分で考え自分で実行していくことが求められます。自転車の乗り方、食事の知識等一生必要なことです。朝食をとることの大切さも理解されているようです。これが、競技力を含め体力から生きる力の生涯教育に繋がっていくように思えます。今後ともよろしくお願いします。 ○ 安全指導はさらにくり返し徹底していただきたいです。 ○ 子どもたちの体力が二極化していると聞きました。コロナもようやく落ち着いたので、運動習慣の取組を進めてほしい。 ○ どの評価項目も高い数字で生徒自身も考えているので良いと思う。 ○ 「毎朝、朝食を摂って登校している」の問いに子どもたちも保護者も「そう思う」の割合が多いのに対して、教師は「少しはそう思う」の割合が多くなっている。その差は何なのかが気になる。 ○ この項目に関してはコロナ禍後、徐々に回復し、いい傾向にあると思う。朝食を摂って登校している事の割合が高いのはいつも感心させられる。 ○ 先生方の危機意識が高く、健康管理への取り組みを強化されている事で安心して学校生活を送れるので良いと思います。

自己評価結果
の分析及び今
後の対応とし
て、学校に期
待すること

3 敬愛…「心の教育の充実」

- 地域行事への参加やボランティアが増えて喜んでいきます。あいさつも変わらず良くしてくれます。生徒たちが地域に目を向けてくれていて頼もしく思っています。
- あいさつについてはこれまで通りよくあいさつしてくれます。心の教育は日常の生活で身につくと思います。家庭でも学校でも地域の方も同じ方向で取り組むことが大事です。心のプレゼントの取組は素晴らしいと思います。今後ともよろしくお願いします。
- 民主主義だからか個人が良ければ良いと思っている人が多くなってきている。社会で生きるためにはコミュニケーションをいかにつくっていくかが重要だと思う。
- 家庭と学校の連携により、良い評価が見られたと思います。
- 家庭が学校に任せきりにならないように家庭でのコミュニケーションを十分とれる環境作りが大切ですね。
- 先生方の評価が高いのに対し、生徒達の中に自己評価が低い生徒がいるのは気にかかる。私の目から見ればこの項目は高い水準にあると思う。
- ポイントが高い生徒が多い反面、低い生徒が心配である。自分から進んで挨拶ができる生徒が増えてくれたらと思います。

4 地域連携…「地域人材の活用と情報発信」

- Sigfy や元気通信で情報発信に力を入れて頂いて学校のことがよく分かります。
- 1年生の総合的な学習の時間の取組で生徒に主体性や自立性を持つように指導されていて素晴らしいです。
- 地域の行事等に積極的に参加してくれる生徒の様子から素晴らしい連携がとれていることに感謝します。少子高齢化のこれからは、生徒の参加がなければ地域の行事はできません。よろしくお願いします。
- 生まれた地域がどのような所なのかを知っておくのは大切なことです。しかし、今の時代は通信が発達して、どこにいてもどこの情報でも知ることができるため庄内への貢献だけを考える必要はないのではないかと思います。
- 学校ホームページや Sigfy は学校のことを知ることができるため、今後も発信してほしい。
- これに関しては去年も同じ事を思ったが、地域の事に関心、興味を持ってもらえる様に我々大人も頑張りたい。ホームページ、sigfy の情報発信は完璧だと思う。
- 先生や保護者、地域の方と色々な体験をする事で、楽しい思い出が増え、大人になるのが楽しみだと思える生徒が増えてくれるといいと思います。